

大学コンソーシアムあきた職員研修事業

秋田県内高校と大学・短大による連携のための合同意見交換会（概要）

1 目 的

高校と大学・短大等による連携が進んでいる状況を踏まえ、大学コンソーシアムあきた高大連携授業をはじめとする相互の連携の一層の活性化を図るため、高校・大学の関係者が一同に会し協議等を行う場を設けるため、秋田県教育委員会、各公私立高校、秋田県学術国際部及び大学コンソーシアムあきたによる合同意見交換会を開催した。

2 開催日時等

- (1) 日 時 平成20年2月28日（木）午後1：30～3：00
- (2) 会 場 カレッジプラザ
- (3) 出席者 別紙参加者名簿のとおり
- (4) その他 会議に先立ち、事前に高校及び大学等に高大連携授業に関するアンケート調査を実施した（別添の参考1及び参考2）。

2 意見交換の概要

会議においては、主として高大連携授業の改善方策等に関して意見が交わされた。ポイントは次のとおり。

○参加実績の入試評価への加味は様々な問題があり困難。

（主な大学側意見）

- ・ 推薦やAO入試において高大連携授業への参加実績を考慮することは一定の意義があると思うが、どのように評価に加味するかという点が難しい。
- ・ 授業への参加が開講大学への進学意欲を高める、という効果を重視すべき。評価の問題もあるので入試への関連付けはそれほど積極的に検討する必要はないのではないか。

（主な高校側意見）

- ・ 高大連携は高校生に高校とは違う授業を受ける機会をつくる、学問への興味・関心を引き出すことが主旨であり、入試の評価に加えることは、その主旨を損なったり、参加できなかった高校生との間に不公平を生じさせるなどの歪みをもたらす恐れがあるのではないか。

○高校生がより参加しやすい仕組みとなるよう柔軟な開講スタイルを検討。

（主な高校側意見）

- ・ 高校生の現状は、授業のほか部活動や補習・各種行事等に忙しく、1科目5回シリーズに全回の出席は難しいのが実態。2回や3回であれば参加できる生徒はもっと増えるはず。

- ・ 平日の5週連続開講ではなく、夏休みや冬休みの期間の土曜日等を利用した集中形式の開講だと高校生にとって非常に参加しやすい。
- ・ 受講申込期限が決められているが、後の時期に開講する科目については遅い申込でもよいなど柔軟に対応してもらいたい。

(主な大学側意見)

- ・ 最近では受講者数が伸び悩んでいる傾向にあり、より受講者を増やし、かつ課題である県北・県南開催の拡大を図るためにも、開講形式をより柔軟にすることが有効。
- ・ 授業回数については5回に拘らなくともしっかりした内容を提供することは可能。回数を短縮した開講形式も取り入れていってよいのではないか。
- ・ 高校生にとって利便が向上するのであれば、平日の開講ではなく土曜集中形式に開講形式をシフトさせていくことも検討してよいのではないか。

○より効果的な事業展開を図るために、高校側のニーズを把握することが必要。

(主な大学側意見)

- ・ 大学側では自学の提供できる分野から高校生向けの授業を企画して提供してきているが、受講者が想定より少ないケースもあり、こういった科目が求められているのかなどの点を高校側から提案していただければ今後の改善につながる。

(主な高校側意見)

- ・ 科目内容に限らず、開講時期についても高校側の主要行事に重なるなどの実態があるので、事前にスケジュールを調整するなどの配慮をしてほしい。
- ・ 県北・県南地域での開催などについては、各年ごとに開講大学を決めて提供していくことも有効ではないか。県北・県南地域は高校生数そのものが少ないが、開講大学が早い段階でわかっていれば高校側でも効果的に生徒への参加を促すことができる。

○その他

- ・ 今後も意見交換会を継続して開催していくことで大学、高校側双方了解した。

3 コンソーシアムにおける今後の検討事項

上記の意見交換を踏まえ、高大連携授業に関する今後の検討事項を次に整理する。

(1) 開講形式の柔軟化による受講促進

- ・ 従来の5回シリーズに拘らない開講スタイルで高校生の利便向上・負担軽減を図る。

(2) 高校側のニーズの把握

- ・ 科目や開講時期などについて高校側の要望をよりの確に把握することが必要。

(3) 県北・県南開催の推進

- ・ 県北・県南地域の高校生への受講機会提供を広げるために、集中講義形式の積極的活用や各年ごとの大学持ち回りにより開講科目数を増やすことが必要。
- ・ より参加しやすい環境づくりのために、開講時期などについて各地域の高校との適切な連携・調整を図る。

(参加者名簿)

秋田県内高校と大学・短大による連携のための合同意見交換会出席者一覧

No	機 関 名	職 名	氏 名	備考
1	秋田県教育委員会高校教育課	主任指導主事	佐藤 健公	
2	秋田県立十和田高校	教 諭	佐藤 真之	
3	秋田県立鷹巣農林高等学校	教 諭	小野 博美	
4	秋田県立能代高等学校	教 諭	藤原 孝一	
5	秋田県立金足農業高等学校	教 諭	萩庭 敦	
6	秋田県立秋田南高等学校	教 諭	高橋 信和	
7	秋田県立秋田中央高等学校	教 諭	伊藤 真	
8	秋田県立秋田中央高等学校	教 諭	虻川 玲子	
9	秋田県立秋田中央高等学校	教 諭	河田 好則	
1 0	秋田県立秋田工業高等学校	教 諭	照井 通則	
1 1	秋田市立御所野学院高等学校	教 諭	伊藤 英	
1 2	聖霊女子短期大学付属高等学校	教 諭	後藤昭二三	
1 3	秋田県立秋田明德館高等学校	教 諭	平野 剛	
1 4	秋田県立本荘高等学校	教 諭	柘植 敏朗	
1 5	秋田県立由利工業高等学校	教 諭	高久 誠	
1 6	秋田県立西目高等学校	教 諭	村上 政基	
1 7	秋田県立大曲農業高等学校	教 諭	坂本 卓也	
1 8	秋田県立横手城南高等学校	教 諭	津川威智夫	
1 9	秋田県立横手清陵学院高等学校	教 諭	伊藤 哲	欠 席

秋田県内高校と大学・短大による連携のための合同意見交換会出席者一覧

No	機 関 名	職 名	氏 名	備考
2 0	秋田大学	教育推進主管・教授	河谷 正仁	
2 1	秋田大学	教務企画係長	中村 勝	
2 2	秋田県立大学	理事(教育担当)	森 宏一	
2 3	秋田県立大学	スタッフ	茜谷 昌平	教務・学生f-m
2 4	国際教養大学	教 授	勝又美智雄	
2 5	国際教養大学	スタッフ	宮崎 誠	教学課
2 6	ノースアジア大学	教養部長	福山 裕	
2 7	秋田看護福祉大学	看護福祉学部長	三田 禮造	
2 8	秋田看護福祉大学	学務課長	山崎 満	
2 9	秋田公立美術工芸短期大学	教 授	澤田 享	
3 0	秋田公立美術工芸短期大学	主 査	仲鉢 誠	
3 1	秋田栄養短期大学	教 授	廣川 忠男	
3 2	聖霊女子短期大学	教務部長・教授	横溝 眞理	
3 3	日本赤十字秋田短期大学	介護福祉学科長	村上 照子	
3 4	日本赤十字秋田短期大学	学務課長	佐藤 昌宏	
3 5	聖園学園短期大学	学生課長・教授	安藤 節子	欠 席
3 6	秋田工業高等専門学校	准 教 授	山崎 博之	
3 7	放送大学秋田学習センター	所 長	澤田 雅	
3 8	秋田職業能力開発短期大学校	学務援助課長	吉田 久男	
3 9	秋田職業能力開発短期大学校	学務係長	真野 洋州	
4 0	大学コンソーシアムあきた企画部長	課 長	和泉 勤	学術国際政策課
4 1	大学コンソーシアムあきた企画部次長	副主幹(兼)班長	高橋 徹	学術国際政策課
4 2	大学コンソーシアムあきた	副 主 幹	藤井 和明	学術国際政策課
4 3	大学コンソーシアムあきた	主 任	佐藤 昭	学術国際政策課
4 4	大学コンソーシアムあきた	主 事	今野 歩	学術国際政策課

(参考 1)

県内各公立私立高校に対するアンケートとその結果

< アンケート対象校 >

- ・対象校 県内全高校63校（県北地区21校、県央地区21校、県南地区21校） 定時制含む
- ・回答数 県内高校 60校（県北地区21校、県央地区20校、県南地区19校）

Q 1 貴校では、高大連携授業を生徒に積極的に活用してほしいと考えていますか？

（○は1つ）

		回答数	構成比
1	そう考える	28	46.6%
2	ややそう考える	19	31.7%
3	どちらとも言えない	10	16.7%
4	あまりそう考えない	3	5.0%
5	そう考えない	0	0%
6	無回答	0	0%

Q 2 貴校では、高大連携授業をよりよい仕組みとするために、どのような取り組みが有効だと考えますか？

（○はいくつでも）

		回答数	構成比
1	受講実績について高校で単位認定を行う	17	18.5%
2	受講実績について大学で単位認定を行う	6	6.5%
3	受講実績を開講大学の推薦・AO入試で評価に加味する	25	27.2%
4	県北・県南各地域での開講科目数を増やす	34	37.0%
5	その他	8	8.7%
6	無回答	2	2.1%

その他...・部活動の大会と重ならないようにしてほしい。

- ・中央以外では、受講者が少なくても開講する。
- ・本校での取り組みは現実的に難しい。
- ・土、日、長期休業中の開講科目を増やし利用しやすくする。
- ・案内、広報を十分してほしい。
- ・高校生にとってわかりやすい話し方と内容。
- ・受講しやすい時期（長期休業中）の実施。
- ・受講実績を開講大学の推薦・AO入試で評価に加味しない方がよい。

Q 3 高大連携授業に対するご意見・ご要望をお寄せください

■ 県北地区 21 校から寄せられた意見

- №01 毎年できるだけ多くの生徒に参加するよう働きかけていますが、場所や時間（開始時刻）等によって受講できない科目があり残念です。鹿角地方の高校生も参加できるようご配慮をお願いします。
- №02 鹿角地域から通うには経済的な面でも問題で残念ながらあきらめざるを得ないというケースや行事や資格試験と重なるケースがあり、参加できませんでした。
- №03 講座の回数を増やし、単位修得が可能になるようにしていただきたい。土・日の開催ではなく、平日の放課後の開催は無理だろうか。講座内容について事前に高校生にアンケートを取り、もっと高校生が関心を持てるような内容にできないだろうか。
- №04 現行では、希望をとる時期が早すぎると思います。高三であっても、部活動の大会と重なったり、志望校のAO入試が絡んだことがあり、お断りする結果になりました。
- №05 これまでも生活科学科の福祉コースでは、秋田看護福祉大学から講師を招いて講義をおこなっている。AO・推薦入試にも役立っている。今後も続けていきたい。
- №06 開講数が中央地区に偏っており、受講が難しい状況にある。県北・県南各地域での開講科目数及び内容の検討が必要と考える。
- №07 秋田市内の平日授業は受講できないため、講座が限定されています。当該学校以外の授業（経済・外国語・工学系など）があると受けたい生徒は多いと思います。（大館・北秋田市など）
- №08 地域的に参加が難しい。
- №09 本事業の主旨からそれてしまいましたが、県内の大学・短大にはない学部や学科について興味を持っている高校生が多いので、連携の規模が大きくなることを期待します。どんな本や雑誌を読めば、大学や短大が高校生に期待する情報が得られるか。また高校の教科・科目も含めどうすれば高校生が専攻したいと考える学問が得意になれるか。
- №10 興味のある講座もあるようですが、能代から秋田に通うのは、大変なようです。（時間的に無理があるので）県北で開講といっても大館開催だと更に不便になってしまいます。
- №11 良いことではあるが、利用できる高校とできない高校（県北・県南に多い）があるのは不公平である。
- №12 少人数でもできる限り開校して欲しい。
- №13 工業高校生であるため講義のような内容に対して、どうしても尻込みしてしまう傾向にあるため、ものづくりの要素を取り入れた内容を多く盛り込んで欲しい。また、進学希望先には興味を持っているため、Q 2 の 3 の事項（受講実績を開講大学の推薦・AO入試で評価に加味する）を検討してもらいたい。

■ 県央地区 21 校から寄せられた意見

- №14 大変よい取り組みだと思います。生徒が目指す大学の授業を受講することにより、モチベーションを高め、受験の準備にかなりの面でプラスになっております。
- №15 今後も続けるべきである。

- №16 本校は、独自に秋田大学と高大連携講座を実施して、単位を認定しているので、大学コンソーシアムあきたの事業に参加する生徒が少ないが、参加生徒の出席状況等がわかれば励ましたりできると思う。
- №17 高大連携授業の申込みなどもインターネットを利用した形で行ってはどうか。
- №18 相互理解の為、生徒の進学意欲喚起の為にも積極的に行うべきである。
- №19 生徒が進路意識を高めることが出来る有効な機会と考えております。今後とも参加を積極的に促していきたいと思います。
- №20 例年大変お世話になっております。授業終了時刻の関係で、秋田市に向かうのが難しくなり、受講希望者が減っております。申し訳ありません。
- №21 生徒は高大連携授業を受講して、大学の研究内容等に感動してきます。その後、進路意識も高くなり、頑張っているようです。高大連携授業はとてもプラスになっています。ただ、前期開校時期についてですが、部活動の生徒の関係で6月上旬の全県総体終了後から開講して頂ければ助かります。
- №22 土曜開催など、なるべく高校の授業に影響の出ない時間帯で行っていただけると有難いと思います。
- №23 高校在学中に大学の専門的な授業に参加して、自分の興味のある分野について確認できることは、よいことだと思う。これからも継続してほしいと思います。
- №24 部活動との関係もあり、できれば集中講義を増やしてもらえれば、参加可能な生徒もでてくると思われます。
- №25 講座名の一覧などから、実施する大学名がわかりやすくなっていれば生徒が選びやすくなるのではないのでしょうか。
- №26 生徒は満足しております。
- №27 本校では毎回「看護」「保育」「国際」の分野に参加希望者がおり、とても有意義な講座になっているようです。県北開催にも出ています。これからもよろしくお願いします。
- №28 授業の会場を開講大学内にしていただければ、高校生が大学の雰囲気を実感しやすくなると思います。
- №29 夏休み、冬休みの授業を増やしてもらいたい。

■ 県南地区 21校から寄せられた意見

- №30 毎年のように生徒がお世話になっております。開催地、時間の関係で参加してみたいと希望をもつものの参加できない生徒がおり残念です。
- №31 参加した生徒の評判はよいようでした。
- №32 部活動や居住地などの理由により受講する生徒を増やすのは難しいと感じています。
- №33 県南地区の高校生は、近くで開講される科目が少ないので参加しにくい。土、日の開催なら時間的には可能だが、部活動との関係もあるので、なかなか参加は難しい。
- №34 大学の先生方は学会等出張が多く、連絡をとるのが難しく苦慮している。よい解決方法はないのでしょうか。
- №35 本校の現状においては早急に必要とは思わないが今後様子を見ながら検討すべきと考えます。

- №36 単位認定してもらうために受講する高校生を増やすよりも、あくまで進路等に関連して自分の関心から受講する生徒を増やす方向でやっていただきたいと思います。
- №37 通常授業や補習授業があるため高大連携授業に参加するには長期休業中を利用することになる。参加生徒は3年生は進路活動があるので不可能であり、1、2年生においては部活動に所属していない生徒が中心となることが予想される。高大連携授業の受講実績を単位認定や入試評価に組み入れることは、高大連携授業の形態を模索中の現状ではまだ不可能であると考えます。
- №38 本校では県内外の大学・短大等への進学希望者に対する動機付けや、学習内容に関する理解の深化のため、有効に活用させていただいております。今後共充実をお願いいたします。
- №39 趣旨に関しては、生徒の興味・関心を引き出す上で、大変有難い企画であると考えます。昔、このようなチャンスが与えられなかった頃の生徒たちと比べ、今の生徒たちは恵まれていると思うし、この点をもっと今の高校生たちにアピールしてよいと思っています。
- №40 専門高校のため、講座開設期間に検定合格のための準備を生徒自らがする必要があったり、部活動の加入率が高く、毎年呼びかけてはいるのですが、なかなか希望者が出ないのが現状です。
- №41 羽後町は陸の孤島のように交通の便が悪く、参加したいと思っても、なかなか外へ行くことができません。湯沢市での開催、あるいは休業中の開催を増やしてほしい。
- №42 今後も実施お願い致します。
- №43 横手、湯沢地域の高校生が秋田市まで通うのは経済的、時間的に厳しいと思います。横手でもいくつかの授業はありますが、分野が限られており、広く参加が望めません。県南地区、県北地区の開講科目数を増やして欲しいと思います。

Q 4 高大連携授業に限らず、県内の大学・短大等との連携についてご意見・ご要望をお寄せください

■ 県北地区 21校から寄せられた意見

- №44 高等教育機関との連携は今の高校生の進路指導にとって不可欠なものだと思いますが、地元になような機関がないため、なかなかうまくいかないのが現状です。
- №45 鹿角地域は青森や岩手への意識が強く、こちらで秋田県内の学校を薦めてもなかなか秋田には向かないのが現状です。もっとアピールすることや機会があればと思っています。
- №46 総合的学習の時間の、年間テーマに合わせて大学の先生に講演をお願いしたところ、広い視野と専門性の感じられる優れたお話で、大学そのものにも生徒達が関心を持つようになったという経験があります。単独で動けない生徒が多いので、そういう形での連携を考えていきたいと思っています。
- №47 現在、高大連携の在り方について検討中である。
- №48 学問への関心を高める事業に加え、その学校・学部が高校生に求める能力を向上させる事業があると、学校の求める生徒像がより具体的に分かると思います。

- №49 出前講座や、インターンシップの受け入れ等でも、お世話になりたいと考えております。
- №50 進学につながれば、効果的と考える。
- №51 大館市にある職能短大と体験授業の形式で2年生全員を対象にオープンキャンパスを実施していただき非常に良かったと思う。地元の大学・短大との連携がやり安いが県北はどうしても限られてしまいます。
- №52 本校では岩手大、秋田看護福祉大の教授に来ていただき、出張講義を行っていただきました。また、進路学習の一環として近隣都市の大学等見学にも行きました。

■ 県央地区 2 1 校から寄せられた意見

- №53 高校の先生方のための模擬授業（大学の先生による）などもあれば、参考になると思います。
- №54 ふだん大学等でやっている授業をやるべきだと思う。連携のための授業ではなく。
- №55 県内の大学ともっと連携をとりたいのですが、時間的拘束がありなかなか取れませんが、もっと活用できればと思っております。
- №56 出張講義や説明会をはじめとして、大変お世話になっております。このような機会は今以上に増やしたいと考えております。
- №57 生徒には業者主催の進路相談会に参加するようにすすめていますが、その相談会に目的の大学が参加されていないことが良くあります。難しいとは思いますが、規模の大きい進路相談会には参加して頂ければと感じます。
- №58 本校は、ノースアジア大学附属高校のためノースアジア大学との連携に力を入れております。

■ 県南地区 2 1 校から寄せられた意見

- №59 県内各大学で、学部・学科のバラエティが増え、好ましい状況と考えます。今後もより多くの分野での連携が期待されるところと考えます。
- №60 Q2にあるように県南でも開催していただきたい。
- №61 生徒の良い刺激になると思う。
- №62 高校側が受け身となっている高大連携授業であるが、工業高校など専門学校の実習設備などを大学側に解放し、大学生と高校生が「ものづくり」などを通して交流する機会が有っても良いと思う。
- №63 Q2にもあるように、県南地域での開講科目数を是非増やしてほしいと思います。
- №64 アカデミック講義などの出前授業で進学希望者の大学に対する意識を強めさせる。
- №65 やはり地の利のある秋田市内の高校生たちからすると、遠方の生徒たちにとっては、時間的にもきびしいのは否めません。そういう意味でも、出前授業を増やしていただければと考えます。特に、本校は2年生から、科別・コース別に分かれるので、1年生の2学期の実施は助かります。

(参考 2)

県内各高等教育機関に対するアンケートとその結果

< アンケート対象校 >

- ・対象校 県内全高等教育機関 13校
- ・回答数 県内全高等教育機関 13校

Q 1 貴学では、高大連携授業の意義を、(ア)県内高校生への自学のPRの機会、(イ)地域貢献活動の一環、のどちらに置いていますか。 (○は1つ)

		回答数	構成比
1	(ア)に置いている	2	15.3 %
2	どちらかと言えば(ア)	3	23.0 %
3	どちらとも言えない	3	23.0 %
4	どちらかと言えば(イ)	4	31.0 %
5	(イ)に置いている	1	7.7 %
6	無回答	0	0 %

Q 2 貴学では、高大連携授業をよりよい仕組みとするためにどのような取り組みが有効だと考えますか？ (○はいくつでも)

		回答数	構成比
1	受講実績について高校で単位認定を行う	8	33.3 %
2	受講実績について大学で単位認定を行う	4	16.7 %
3	受講実績を開講大学の推薦・AO入試で評価に加味する	3	12.5 %
4	県北・県南各地域での開講科目数を増やす	8	33.3 %
5	その他	1	4.2 %
6	無回答	0	0 %

その他...・受講大学の理解を深めてもらう機会を作って欲しい

Q 3 高大連携授業に対するご意見・ご要望をお寄せください

№01 夏季休業中の集中講義は高校生は受講しやすいのでしょうか。しやすいならばもっと増えてもいいと思います。

№02 高等学校教員と大学教職員による情報交換会の開催、大学の授業公開（高大連携授業に高校の教員も参観するなど）を定期的の実施し、高等学校教員のスキルアップを図ることができる機会を設定する。

№03 長期休業期間中の活用を検討して欲しい。

№04 Q 2 で答えましたように、高校もしくは大学で単位認定されるならば、受講者にとって励みになるかと存じます。ただし、単位認定にはそれなりの時間数確保が必要となります。それが可能かどうか。

№05 高校生がなるべく参加しやすい日程で授業を設定したいと思います。

Q 4 高大連携授業に限らず、県内の大学・短大等との連携についてご意見・ご要望をお寄せください

№06 高校の先生がコーディネーターとなる科目はいかがでしょうか。「うちの生徒には、○○大学の○○先生の講義を聞かせたい」という希望が、反映できると思います。ぜひ、大学のシラバスを読んでください。

№07 Q 3 同様、情報交換会を定期的の実施する。

№08 大学・短大からの、いわゆる出前授業を増やすことで、県内の大学・短大をよく知ってもらい、県内への進学者を増やすことができれば、と考えます。

№09 高校からの要請があれば、その都度対応している。

№10 県北の高校を中心に新たな取り組みとしてキャリア形成支援に取り組んでおります。よろしければ資料をお持ちしたいと思います。

№11 授業だけでなく、行事などでの連携も検討してはどうかと感じております。